

会議等報告書

報告年月日	平成 26 年 11 月 10 日 (月)	報告者	竹ノ内 敏孝
会議等名称	平成 26 年度文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム 昭和大学在宅チーム医療教育事業説明会 「大学と地域で育てるホームファーマシスト」 ～患者と家族の思いを支え、在宅チーム医療を実践できる薬剤師養成プログラム～		
開催日時	平成 26 年 11 月 2 日 (日) 13 時～15 時 30 分		
開催場所	昭和大学 4 号館 5 階 500 号教室		
出席者	別添参加者一覧表参照		
欠席者	別添参加者一覧表参照		

< 報告事項 >

1、参加状況 全 57 名 (学外出席者：11 名 / 23 名、学内出席者：45 名)

2、講演

- 1) 「課題解決型医療人養成について」丸岡充 (文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官)
丸岡充氏 (文部科学省医学教育課薬学教育専門官) から本事業の趣旨とそれに対する期待が述べられた。趣旨は、地域に密着しチーム医療に対応できる薬剤師の養成、現場薬剤師の資質向上、実務家教員の現場感覚の維持を図り、さらに大学が病院、診療所、薬局等と組織的に連携し、学生教育プログラム、指導薬剤師の資質向上プログラム等を通じて、地域医療で活躍できる薬剤師となる学生を養成するプログラム・コースを構築し、全国に普及させ得る事業計画を支援するものであるとの説明があった。
- 2) 「本事業概要説明」加藤裕久 (在宅チーム医療教育推進室長、薬学部医薬情報解析学部門)
- 3) 「カリキュラム構想」木内祐二 (薬学部薬学教育学)
- 4) 「地域包括ケアシステムにおける IPW 実現を果たすための IPE 構築 初年次教育から」田中一正 (富士吉田教育部)
- 5) 「富士北麓在宅医療連携の会の活動」穂坂路男 (勝山診療所/富士吉田北麓連携の会)

3、質疑応答

- 1) カリキュラム案にある 6 年次実習スケジュールについて
→詳細は未定だが、現時点は 5 月に行っている 6 年次の実習を 4 月に移行したいと考えている。
医・歯・保健医療学部との調整も必要であり、実現可能か今後検討を行う。
- 2) 指導薬剤師養成の対象者は、在宅医療に参画している薬剤師を対象としたものか、否か。
→現時点の在宅医療参画の有無に関わらず、多くの先生方に参加して頂きたいと考えている。
- 3) 医師会等の各職能団体と連携することは可能なのか。大学には、今後の地域で行う連携についても念頭に入れて頂きたい。
→当初より、我々も十分に認識があった。まずは、モデル地域で行い、徐々に複数の地域へと広げていきたい。地域を中心として、多職種と連携し、まずは立ち上げを重点的に今年度から始めていきたい。各方面へのご説明には、随時お伺いしたいと考えている。

4、各 WG 顔合わせ

- 1) 学内教育 WG (木内)
 - ・毎月第 1 火曜日夕方に定例会議開催、及び、本年末 WS 開催の企画を確認した。
 - ・第 1 回会議を近日中に開催し今後の予定を検討する。
- 2) 地域医療実習構築 WG (中村 (明))
 - ・地域医療実習を行う際、実習地域を増やすと同時に、実習参加学生の確保が課題として挙げられた。今後、学生への周知が必要になる。
 - ・それと共に、良い地域があればご紹介をお願いした。
- 3) 教育ツール WG (平岡)
 - ・亀井 WG 責任者が欠席のため、平岡先生が対応。後日、会議を開催して詳細を検討する。
 - ・PBL シナリオ作成を行う担当 WG について質問があり、教育ツール WG にてビデオ作成を含めたシナリオ作りが確認された。
- 4) 指導薬剤師養成 WG (田中 (佐))

- ・毎月第2火曜日を定例会議開催日と予定した。なお、11月の会議は第4火曜日を予定。
- ・地域に参画していく薬剤師に必要な点、生涯学習にも繋がるプログラム構築のための意見を吸い上げることを目的としたWSを平成27年2月22日（日）に開催を予定した。
- ・準備委員会を今月・来月など実施、どのような人を選ぶかについても、現在6年生を受け入れている地域などに相談しながら実施いく。
- ・ワークショップWGと連携して進めて行く。

5) 情報WG (大林)

- ・本事業の成果等を可能な限り可視化した上で、地域や社会に対してわかりやすく情報発信するとして、充実したHPを作成（現薬学部HPメーカー（IIJ）との相談も考慮）。
- ・本事業の仕組みやシステムの構築（→在宅医療支援システムの構築・運営）
- ・指導薬剤師養成として120時間履修については、e-learningシステムの構築と利用、また現場での経験も可能との事なので、電子ポートフォリオを利用した症例を用いてPBL等で行いたい。
- ・成果のアウトプットだけではなくアウトカム（世の中がどう良くなったか、学生や薬剤師がどのように成長したか 等）の評価（→電子ポートフォリオの活用）
- ・現行の電子ポートフォリオは、新たに構築するのではなく現状を再構築との意見。学内ポートフォリオ委員会のような委員会が立ち上がったなら、オブザーバーとして情報WG責任者の参加を希望した。

6) ワークショップWG (日下部)

- ・本年度WSは、12月22日（月）にWGメンバーにて開催することとした（予定していた12月24日（水）は当日、保健医療学部教授総会が開催されるため）。なお、各WGでの検討はメンバーの重複および学外の先生方の参加が難しいことが予想され、地域医療実習構築と指導薬剤師養成を除く。
- ・第1回目の会議は、11月4日（火）を予定した。

7) その他

- ・12月22日のWSテーマについて、WG毎のテーマとのことだが、昭和大学として卒業時にどのように地域医療に対する知識・技能・態度を持つ人を育てるのか、ということを通認識することが重要でありテーマとして提案する。それがあって始めて地域医療実習をお願いすることが可能であり、それに向けたツールの作成、それらに応じた段階的教育となるのではないか。（中村）
- ・全員が目標を共通認識することは重要なことである。また、目標に照らして評価する組織が必要ではないか。（山元）
- ・学習効果の評価についても今後の検討課題としたい。（木内）
- ・事務局は、全体のスケジュールを把握し、全体の動きの調整してほしい。事務局が全体の動きを把握しているためには、各WGは今後の方向性や検討事項を事務局に連絡、また、学内外で各所に依頼や連携等を行う場合は、一旦、事務局を通してという運用を行っていただきたい。（例：医師会など学外組織と交渉、学事部と連携、他のWGと連携、医師会など学外組織と連携など）（山元）
- ・本プロジェクトの成果および広報等の発信を行う主担当者が今後必要ではないか。（中村）
- ・カリキュラムの作成等は、地域の多職種と連携を取りながら行ってほしい。（加藤）